

「丁寧さ」・「礼貌」・「ㄱᄇᄇ(恭遜)」: "Politeness"
に対する日常的個別概念の日・中・韓比較

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/34324

「丁寧さ」・「礼貌」・「공손 (恭遜)」

——“Politeness” に対応する日常的個別概念の日・中・韓比較——

陶 琳・尹 秀美・西嶋 義憲

0. はじめに

東アジア圏において、日本人、中国人、韓国人の相互接触が日常的になっている今日、お互いのコミュニケーション行動の背景にある行動規範や価値観の異同を知ることは不要な摩擦を予め避けるために重要なことである。各言語のコミュニケーション行動の基本的なあり方を表わす日常的個別概念は語彙化されている。日本語・中国語・韓国語ではそれぞれ「丁寧さ」・「礼貌」・「공손 (恭遜)」が基本的な概念とされる。これらの概念は、英語の「ポライトネス (politeness)」に対応すると一般に言われるが、その出自や意味は異なるようである。本稿では、上記概念の3言語間の意味の異同を、辞書情報とアンケート調査により明らかにする。コミュニケーション行動というものは個別言語社会における固有の価値観や規範の影響を強く受けていることを指摘し、個別言語のコミュニケーション行動をメタ言語的に評価する、語彙化された概念の研究の重要性を主張する。

1. 問題設定

1.1. 2種類の「ポライトネス」

個別言語社会におけるコミュニケーション行動は、当該言語社会の価値観や規範を基準に規制され、そのような規制のために利用される概念が語彙化されている。「politeness」・「丁寧さ」・「礼貌」・「공손 (恭遜)」は語彙化された、そのような概念の一部である。しかしながら、対人配慮行動に関する研究で頻繁に言及される「ポライトネス (politeness)」もしくは「丁寧さ」には、レベルの異なる2種類の概念が区別される。日常的に使用される個別概念のレベルのそれと学術的に使用されるメタ概念のレベルのそれである。これらは、Watts et al. (1992: Introduction)では、それぞれ *politeness1* と *politeness2* と呼ばれている。

前者の日常的個別概念レベルの「ポライトネス」もしくは「丁寧さ」というのは、英語なら “polite”, “friendly”, “considerate”, “rude” など、日本語なら「丁寧な」、「思いやりのある」、「親切な」、「生意気な」など、コミュニケーション参加者の行動を当該社会で有効な規範に基づいて評価するさまざまな概念と同じレベルに属するものである。これらの概念は、コミュニケーション行動評価概念 (evaluating concepts of communicative behavior) と呼ばれることもある。他方、後者の学術的なメタ概念レベルの「ポライトネス」ないし「丁寧さ」というのは、前者のような日常的個別概念を包括する理論的上位概念であり、また、適切なコミュニケーション行動に関する研究一般を指すメタ概念でもある。この区分に対応するように、ポライトネス研究には2つの方向が区別される (丸井, 2006; cf. Marui et al., 1996)。

1.2. 2つの研究方向

個別言語の日常的個別概念は、当該言語による歴史的文化的な制約を強く受けている。その個別文化が反映している概念を基礎に、その使用の背景にある規範や習慣を明らかにしようとする研究方向がある。たとえば、Eelen (2001)や Watts (2003)などの研究がこの方向に属する。他方、どの言語にも共通して認められる対人配慮行動を普遍的な行為とみなし、その具現の仕方における異同を研究しようとする方向もある。こちらは、Brown & Levinson (1987) に代表される研究である。本稿は、前者の個別言語社会で通用している日常的個別概念の研究に位置づけられるものである。

1.3. 問題提起

日本、中国、韓国はその地理的位置および歴史的経緯から、一般的に、文化的な面において共通点が多いと言われている。また、日本人、中国人、韓国人はその容姿が似ている。そのため、コミュニケーションの際、たとえ言語が違っていても、つついと同じような振る舞いを相手もするはずだと思いがちである。ところが、実際のコミュニケーションにおいては、そのような期待がしばしば裏切られる。このようなズレの原因はコミュニケーションにおける各言語の対人配慮行動の仕方の違いにあると推測される。対人配慮行動が個別言語ごとに異なることを、日常的に用いられる語彙化されたコミュニケーション行動評価概念を対比することによって明らかにすることができるだろう(cf. Ide et al., 1992; Marui et al., 1996)。

本稿では、コミュニケーションにおける適切な配慮行動を表わす日常的で一般的な英語概念“politeness”に対応するらしい日・中・韓の日常的個別概念「丁寧」・「礼貌」・「공손 (恭遜)」を比較する。それにより、日・中・韓における概念間の異同を明らかにし、それぞれの言語のコミュニケーションにおける通常性(何を当たり前とみなしているか)に関する基本的な考え方の違いを抽出する。

2. 英語“politeness”に対応する日本語・中国語・韓国語の概念

2.1. コミュニケーション行動評価概念・語彙化・辞書の語義記述

本節では、Nishijima (1996) に基づいて、コミュニケーション行動評価概念(以下、評価概念と略記する。とくに断らない限り、コミュニケーション行動評価概念を表わす)、それが語彙化された表現、そういった表現の辞書における語義記述との関連について述べておく。評価概念それ自体は概念なので直接的に分析することは不可能である。しかしながら、分析のための方法論的手段として評価概念を表示する言語表現を利用することが可能であろう。この方法を用いることによって、間接的にはあるが、評価概念にアプローチできることになる。語には、個々の言語社会で社会的文化的に通用している「普通」ないし「通常」と見なされる概念、感情、思考法、習慣などが反映・沈殿していると想定できるからである。語と概念との間に特定の対応関係が存在すると確実に期待できるなら、評価概念を表示する語の辞書記述を利用して、その概念には何が関与しているのか、またそれはどのような構造になっているのかについて明らかにできるはずである。

しかし、ここで注意しておかなければならないのは、評価概念とそれが語彙化された言語表現とは異なるレベルにあるということである。というのも、それらは互いに独立して変化を遂げてきているからである。評価概念は、さらに、語彙化されているものと語彙化されていないものの2つのグループに分けられる。たとえば、「丁寧」は語彙化されているが、「傷つけない」や「何様だと思っているのか」は語彙化の途中段階にあると言えよう。両者は注意深く区別して扱われなければならないだろう。

評価概念とその語彙化された表現との間に特定の関係が期待でき、それを前提とすることができるならば、ある言語の辞書の語義説明を評価概念の分析に利用できるはずである。というのも、語彙化された評価概念はすでに豊富に存在しているからである。辞書の語義説明は、たしかに辞書編纂者によって異なることがありうる。しかし、同じような時期に公刊された辞書が複数あれば、それらに共通する語義内容を見出すことができるかもしれない。それが可能ならば、その一致は語義説明の内容が一般に通用する妥当なものであると判断することができよう。通常、評価概念とそれが語彙化された表現の辞書による語義説明の内容には多少の時間のずれが想定される。それは、辞書編纂作業にはかなりの時間を要することによる。しかし、ズレがあるにしても、著しくかけはなれているというわけでもない。したがって、辞書の語義記述は、評価概念およびその社会的文化的背景をおおむね反映していると考えてよからう (Reinelt, 1995: Teil 4)。このようにして、辞書の語義説明を利用することにより、評価概念とその社会的文化的背景にアプローチしていくことが可能になる。

ただし、辞書記述を利用した評価概念の研究は、ある特定の時代に発行された、ある言語の複数の語義情報に共通性があることを前提としている。その意味で、辞書の語義記述に基づく評価概念の研究は、ある種の「平均値」を求めるものである。この種の研究の問題点としては、ある言語の辞書を用いて明らかにされた評価概念の構造が、当該言語のさまざまな社会集団の成員間において実際にどの程度有効性を持ちうるかという疑問が挙げられる。この問題点を克服するためには、アンケート調査などにより、実際に評価概念がどのように使用されているのかを探ることが必要である (西嶋, 2000)。

2.2. 日本語の場合：「丁寧」

『日本国語大辞典』(第二版)によると、「丁寧」とは、「昔、中国の軍中で、警戒の知らせや注意のために用いられた楽器」と説明されている (p. 574)。そこから、社会的な相互行為一般における「注意深さ」や「念入り」といった対人配慮の態度を表わすようになったと考えられる。入手可能な辞書に基づいて、「丁寧」の意味の変遷をたどってみよう (なお、以下の記述は、Nishijima (1995) に基づいている)。

16・17世紀の日本語の語彙が集録されている『邦訳日葡辞書』によると、「丁寧」関連語彙はつぎのように記されている：

「丁寧」： 「非常に手厚い取扱いと厚情と。」

その例として「(丁寧を尽す) 非常に手厚い待遇をする」

「丁寧に」： 「副詞。懇切に、あるいは、心を込めて、非常に丁寧に、など。」

「丁寧さ」：「愛情深さや手厚さ」

『邦訳日葡辞書』(p. 642)

16・17 世紀における「丁寧」は、対人関係における手厚い態度や愛情の深さを意味していることがわかる。つぎに明治期の辞書の 1 つ『日本辞書 言海』(1891) を見てみよう。

「丁寧」：「善ク善ク心ヲツケテ、ネンゴロニ、心切ニ」

『日本辞書 言海』(p. 685)

この記述から、厚情や手厚い態度が読み取れる。さらに同時代の『日本類語大辞典』(1909 年刊) では、「ていねい」は『ねんごろ』を看よ」と指示される (p. 997)。「ねんごろ」を検索すると、「大事にすること。手厚きこと、しんせつなること」と記されている (p. 1158)。

19 世紀末から 20 世紀初頭では、「丁寧」は心を配ることから「懇ろ」とほぼ同義に使われていることがわかる。明治維新によって社会構造が変わったはずであるが、辞書記述においてはまだ、16・17 世紀の記述とほぼ同じく、親しい人物間での厚情という意味が読み取れる。つぎに現代の辞書の『広辞苑』(第 6 版) を見てみよう。

「丁寧」：「注意深く心がゆきとどくこと。また、てあつく礼儀正しいこと。」(p. 1908)

現代では、明治期の記述とは異なり、「礼儀正しい」という説明が出現しているのがわかる。このような語義変化を理解するためには、日本の近代化の歴史における社会構造の変化、とくに自由な人的移動を考慮する必要がある。詳細は Nishijima(1995)の記述に譲るが、ここでは以下のように簡単にまとめておく。

19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての「丁寧」は、「懇ろ」・「しんせつ」・「手厚い」といった意味であった。これらは「人間関係における手厚さ」とまとめることができる。ところが、現代の「丁寧」は、辞書説明によれば、対人関係では「礼儀正しい」という意味が基本になっている。「礼儀正しい」は、字義通りなら、「儒教の規範にそった」という意味になるが、武家社会が崩壊し、その基盤となる社会が失われて以来、今日ではむしろ「形式的儀礼や行儀にかなった」という形骸化した意味を表わすに過ぎなくなっている。この変化は、「丁寧」の古い語義に含まれていた個人的な「手厚さ(愛情)」といった要素が、他者との交流が日常的になり、形式的で規範的な要素に置き換えられたと考えれば説明が可能である。近代国家としての日本が成立する際、社会構造の変化による人的移動の日常化が個人間の関係に影響を与え、その結果、それが語義に反映したと考えることができる (cf. Nishijima, 1996)。

2.3. 中国語の場合：「礼貌」

英語の「ポライトネス(politeness)」に相当する中国語は現代では「礼貌」とされる。しかし、これは極めて最近の概念である。もともと古代中国において、対人関係では儒教思想の「礼」が重んじられてきた(彭, 2012)。2500 年前、孔子が「論語」のなかで「非礼勿視、非礼勿聽、非礼勿言、非礼勿動(礼に非ざれば視ること勿れ、礼に非ざれば聴くこと勿れ、礼に非ざれば言うこと勿かれ、礼に非ざれば動くこと勿れ)」と説いているが、それは「礼」の対人関係におけ

る重要さを強調したものである。

ところが、この儒教思想の「礼」は、近代の社会体制の変化によって大きな影響を受けることになる。特に、辛亥革命(1911)を経て五四運動(1919)に至り、清の消滅によって文語文から白話文(口語文)に切り替わり、現代語における敬語が形成されると同時に、古い敬語の淘汰が始まった。例えば昔の中国では「御製」「御筆」のように皇帝や皇室には、敬語を多く使っていた。しかし、これらの皇室用語は清朝の滅亡とともに使用されなくなった。そして、中華人民共和国の成立(1949)によって社会主義国家となり、従来の人間関係が批判的に捉えられるようになった。特に文化大革命(1966-1976)により対人関係に関わる儒教思想の「礼」も批判され、軽んじられることとなった。その結果、新たな再編された社会関係に相応しい言葉が使用されるようになった。例えば、「同志」という語が、日本語の「さん」にあたる敬称として、しかも見知らぬ人への呼びかけとして広く使われた。さらに、人間関係一般の呼称として、夫婦でも、親子でも、すべて「同志」と呼んだ。

しかしながら、その後、とくに 1980 年代頃からの「改革開放」政策の実施に伴い、国際的な人的交流が盛んになり、対人行動が重要な案件になった。そこで、儒教思想の「礼」が復権し、かつて批判された伝統的な対人関係を表わす「先生」「夫人」「弑純」といった呼び方が徐々に使われだしてきている。また、「言語美」を提唱し、「礼貌用語(エチケット用語) 10 字運動」といったキャンペーンが繰り返し行われるようになった。それ以来、中国の人々の間では言語生活において、「礼貌用語」が大きな比重を占めつつある。このようにして「礼貌」は、好ましい対人関係、すなわち、言語や行為で表現する恭しく謙虚な態度を表わすようになった。現代中国社会では「礼貌」が社会の中で生きていくために守るべき規範となっている (Gu, 1990; 金田一ほか編, 1995: 651; 陶, 2001: 31; Kádár & Pan, 2011: 131-134)。

*

上記の変遷を辞書によってたどってみよう。

現代中国で対人関係を表わす基本概念とされる「礼貌」であるが、文化大革命以前に出版された辞書(『康熙字典』(1766-1834: リプリント 1996)、『中華大辞典』(1935)、『辞海』(1936))には「礼貌」の見出し語はないが、「礼」は見出し語として存在している。しかし、1930 年代に発行された『漢語詞典』簡本(初版 1937, 第 11 刷 1957)には見出し語として「礼貌」が出現している。それによると、「表示敬意之儀容(敬意を示す容貌)」という意味であるが、以下で見るように、現代の意味とは少し異なっている (p. 300)。このことから、「礼貌」という表現は新しく、「礼」が以前からある概念であることがわかる。なお、1936 年発行の『辞海』によれば、「礼」は「①敬神、②奴隷社会あるいは封建社会貴族等級制的社会規範和(と)道德規範」と記述されていることから、発行当時すでに、「礼」は封建を社会主義的という観点から批判的に述べられていることがわかる (p. 2228)。

文化大革命後の 1980 年前後の辞書では「礼貌」が見出し語として登場するが、時代により意味が拡大している。それを『現代漢語辞典』の初版(1979)と第六版(2012)を比べて確認してみよう。

「礼貌」: 「言語動作謙虚恭敬の表現(言語、動作が謙虚で恭しい表現)」

『現代漢語辞典』(1979)

「礼貌」:「人际交往中言語動作謙虚恭敬,符合一定礼仪的表现(人と人との付き合いの中に言語、動作が謙虚で恭しいこと。一定の礼儀を符合する表現)」

『現代漢語辞典』(第六版、2012, p. 793)

つぎに、その意味の変遷を『漢語大辞典』を見てみよう。

「礼貌」:「以庄肅和順之儀容表示敬意、尊敬(端正で落ち着きがある温和で従順で容貌で敬意、尊敬を表す)。今指以言語、行動所表現的恭敬謙虚(今言語、動作で表す恭しいことと謙虚)。宋司馬光《涑水記聞》卷十五公曰:“凡待人無貴賤賢愚、礼貌当如一”(人に対する地位の上下、また才能があるかないか関係無い、礼貌はまったく同じであるべきである。)'『漢語大辞典』(1991, p.964)

『漢語大辞典』の記述からわかるように、昔「礼貌」という言葉が存在しなかったということではなく、存在はしていたが、かつては、敬意や尊敬を表す容貌を意味していた。ところが、現在では、言語や動作で表す恭しいことと謙虚を意味するようになり、意味が拡大しているのである。

2.4. 韓国語の場合:「공손(恭遜)」

英語の「ポライトネス(politeness)」に対応する韓国語には、「공손(恭遜)」、「예의바름(礼儀正しさ)」、「정중(丁寧)」など、様々な表現がある。また、待遇表現と関連させ、韓国語の敬語を称する「존대(尊待)」と結びつけて考える人も少なくない。ところが、社会言語学などの学術分野において、最初に「ポライトネス」について論じた조(1979)が「공손(恭遜)」という用語を使って以来、ほかの研究者も主に「공손(恭遜)」を使うようになってきている。

従来韓国において行われてきた敬語に関する研究に比べ、「공손(恭遜)」に関する研究は極めて少ない。その原因は、敬語システムを持つ韓国語では、言語が実際どのように使われているかより言語形式に焦点をおいた研究が行われてきた、すなわち、「敬語法」があるので「恭遜法」に対する認識が不十分だったと考えられる(하, 2009)。

日本語も韓国語も敬語システムが備わっているが、よく知られているように、日本語は相対敬語であり、韓国語は絶対敬語である。また、韓国では、日本に比べ年齢に関する意識が強い。たとえば、自分より1歳でも上の人に対しては、たとえ親しい人であっても敬語を使うことが当たり前とされている。かなり親しい友人(韓国語ではどんなに親しい友人でも年齢差がある場合は「친구(友人)」という表現をあまり使わず、代わりに「친한 형(親しい兄)」や「친한 언니(親しい姉)」と言うなどに対しては敬語を使わない場合もあるが、その時も呼称だけは「お兄さん」や「お姉さん」に相当する「오빠」・「형」や「언니」・「누나」を呼ぶ人物の性別によって使い分けなければならない。このような呼びかけ表現を使うのが、「공손(恭遜)」の1つの表れではないかと考えられるが、今まであまり注目されてこなかった。

英語の「ポライトネス」に対応するとされる「공손 (恭遜)」を辞書で調べた結果、つぎのようであった。

「말이나 행동이 겸손하고 예의바름 (言葉や行動が謙遜で礼儀正しいこと)」

『国立国語院標準国語大辞典』(ウェブ版, 2012)

「예의바르고 겸손함 (礼儀正しく謙遜である)」『延世韓国語辞典』(ウェブ版, 2000)

2.5. 現代の辞書説明における日・中・韓の異同

上述した日・中・韓の辞書説明を対比すると、つぎのようになろう。

日本語の「丁寧」: 「手厚く礼儀正しいこと」

中国語の「礼貌」: 「言語や行為で表現する恭しく謙虚な態度」

韓国語の「공손 (恭遜)」: 「言葉や行動が謙遜で礼儀正しいこと」

中国語と韓国語の辞書には「言語 (言葉)」や「行動 (行為)」というように、使用領域を限定する表現が含まれているが、日本語にはない。また中・韓には、「謙虚」もしくは「謙遜」が含まれている。ところが、日本語にはそれは見えない。日・韓では、「礼儀正しい」が共通している。中国語に「礼儀」が含まれないのは、見出し語の中にすでに「礼」があるからであろう。

辞書定義を見る限り、3言語間でそれほど大きな隔たり認められない。「礼」を共有しているという背景があるからだと推測される。しかし、その実際の運用は異なっているようである。

3. アンケートによる調査

3.1. 調査方法

評価概念の辞書による語義説明と日常的な理解との間には違いがある可能性がある。そこで、記入式アンケート調査 (複数回答) を実施し、「丁寧」・「礼貌」・「공손 (恭遜)」と聞いて思い浮かべるもの/ことについて、それぞれの母語話者を対象に回答してもらった。日本語の質問はつぎのとおり:

丁寧という語を聞いて、あなたはまず何を思い浮かべますか? 思い当たる言葉をいくつか書いてください。

調査方法: 記入式アンケート調査 (連想調査、複数回答可)

実施時期: 2008年11月、2009年3月~6月、2012年7月

実施場所: (日本) 神奈川大学、金沢大学、富山大学、東京理科大学、東京工科大学
(中国) 北京第二外国語大学、北京工業大学
(韓国) 東亜大学

回収数: 日本 256 (男性 130、女性 126)

中国 165 (男性 55、女性 110)

韓国 100 (男性 49、女性 51)

回答数： 日本 393 (男性 196、女性 197)

中国 278 (男性 72、女性 206)

韓国 238 (男性 137、女性 101)

(複数回答可と指示しておいたので、回答数は回収数を上回っている。)

3.2. 分類と回答例

回答は、その内容によって複数のカテゴリーに分類できるが、本稿ではつぎの主な6つのカテゴリーについてのみ論じる。それぞれ日本語、中国語、韓国語の調査から得られた回答の中で、共通の性格を持つ語彙を1つのカテゴリーに入れたが、回答が多かった上位6つのカテゴリーは以下のようなものである。カテゴリーの右側にあるのは回答例(日本語のみ記載)。

【言語表現】： 「ありがとうございます」(定型表現)；「ございます」「です」「ます」
(敬語表現)；「敬語」「言葉遣い」

【礼儀/マナー】： 「礼儀正しい」；「常識」；「行儀」

【教養/上品】： 「上品」；「きちんとしている」；「素敵」

【敬意/尊敬】： 「尊敬」；「敬意」

【好意/親切】： 「心がこもっている」；「親切」

【否定的】： 「堅苦しい」

4. 結果

4.1. 言語によるカテゴリーの注目度の違い

回答の集計結果を表にしてみると、表1のようになる。

表1 日本語、中国語、韓国語の回答の集計結果

分類	日本		中国		韓国	
	男(196)	女(197)	男(72)	女(206)	男(137)	女(101)
言語表現	40.3	39.1	33.3	35.0	7.3	8.9
礼儀/マナー	13.3	12.7	11.1	9.7	29.9	33.7
教養/上品	4.6	3.6	19.4	28.6	8.8	9.9
敬意/尊敬	1.5	2.0	1.4	2.4	1.5	2.0
好意/親切	1.5	6.1	1.4	4.9	11.7	14.9
否定的	2.0	1.5	5.6	4.9	8.0	4.0

* 注：単位：%

日本語は、【言語表現】と【礼儀/マナー】を合わせると、5割を超える。【言語表現】のみで4割弱を占める。言葉に対する比重がかなり高い。

中国語では、日本語と同様に、【言語表現】に注目する度合いが高い。また、【礼儀/マナー】にも関心はあるが、それよりもむしろ【教養/上品さ】のほうに注目している。

韓国語では、【礼儀/マナー】と【好意/親切】に対する注目度が高い。【礼儀/マナー】が3割強

を占める。韓国社会では、言葉よりも行動に注目していることがわかる。

4.2. 有意差の検証

上記の結果を言語や性別によって異なるかどうかを統計的に検証するため χ^2 検定を行った。本研究における統計的仮説検証の有意水準は0.05%であり、多重比較にはライアン法則(Ryan's method)を利用した。その結果を表2に提示する。

表2 日本語、中国語、韓国語の集計結果に関する多重比較検定

項目		男性	女性		χ^2 値	多重比較検定
言語表現	日本	40.3	39.1	国籍	72.2	* 日>韓、中>韓
	中国	33.3	35.0	性別	0.1	
	韓国	7.3	8.9	交互	0.2	
礼儀/マナー	日本	13.3	12.7	国籍	14.5	* 韓>中
	中国	11.1	9.7	性別	0.0	
	韓国	29.9	33.7	交互	0.2	
教養/上品	日本	4.6	3.6	国籍	39.1	* 中>日、中>韓
	中国	19.4	28.6	性別	0.7	
	韓国	8.8	9.9	交互	1.9	
敬意/尊敬	日本	1.5	2.0	国籍	0.0	
	中国	1.4	2.4	性別	0.4	
	韓国	1.5	2.0	交互	0.0	
好意/親切	日本	1.5	6.1	国籍	20.1	* 韓>中、男:韓>日
	中国	1.4	4.9	性別	5.1	* 日:女>男
	韓国	11.7	14.9	交互	0.7	
否定的	日本	2.0	1.5	国籍	5.8	
	中国	5.6	4.9	性別	1.0	
	韓国	8.0	4.0	交互	0.6	

* 注: $P < 0.05$, 単位: %

カテゴリーごとに見てみよう。【言語表現】に関する回答数については日本と中国がそれぞれ韓国より有意に多い。【礼儀/マナー】に関する回答数は韓国が中国より有意に多い。【教養/上品】に関する回答数は中国が日本と韓国に比べて有意に多い。【好意/親切】に関する回答は、中国より韓国が有意に多く、男性の回答だけをみると日本人男性より韓国人男性の回答が有意に多い。性別における差は【好意/親切】において日本人女性の回答数が男性より多い。

5. 考察

5.1. 日本語

今回の調査結果を見る限り、日本語の「丁寧さ」に関して、【言語表現】への注目度が高い。このカテゴリーだけで4割近くに達する。日本語で「丁寧さ」を表わす象徴的な現象は敬語や挨拶表現などの言語表現のようである。これは、日本社会で規範とされる敬語使用と密接な関係がある。この結果により、場面や立場に応じた言語が適切使えることが期待されていると考えられる(井出ほか, 1986; cf. Haugh & Obana, 2011)。

5.2. 中国語

1980年代から、中国国内では「礼貌用語」を使うことが提唱されてきた。特に「您好! (こんにちは)」、「谢谢你 (有難う)」、「对不起 (すみません)」、「请 (どうぞ)」などのような礼貌

用語を適切に使用することは人間関係をコントロールするのに、とても重要な役割を果たすとされる(金田一ほか編, 1995: 651)。

今回の調査結果によると、中国人学生は【言語表現】に注目している度合いが高い。その理由は礼貌用語を使うことを提唱する運動の成果ではないかと推測される。また、中国は【教養/上品】にも着目している。これは、対人行動において、「礼貌」を体現するような行動を肯定的に評価し、自分もそのように見てもらいたいという願望の反映だと解釈される。

5.3. 韓国語

韓国人が「공손(恭遜)」という言葉聞いて思い浮かべるのが【礼儀/マナー】に属するものである理由は、辞書における「공손」の意味説明から分かる。上記の2つの辞書において、共通して「礼儀正しい」という意味が挙げられている。研究者によっては英語のポライトネスを「礼儀正しいこと」と訳す場合もあるが、韓国人はこの「礼儀」という表現を「礼節」という表現とほぼ同じ意味と理解している。それは話し方より行動に焦点を置いたものである。

上下関係が厳しい韓国では、目下は目上に対して敬語を使うのが当たり前のことと認識されているため、言語使用については意識しなかった可能性がある(cf. Kim, 2011: 176)。人間関係において、たとえば親密な関係にある自分の両親に対しては、敬語を使わなかったとしてもポライトでないと非難される確率は低い。むしろ、敬語を使うことにより相手に話し手との間に距離感を感じさせてしまうことさえもあろうるのである。言い換えれば、韓国語コミュニケーションにおいては、年齢や社会的地位によって使われる敬語・丁寧語が明確に分けられているため、敬語の使用は当たり前のことと見なされ、その結果、【言語表現】に関する回答例が逆に少なくなったと考えられる。

「恭遜」の辞書における意味は、すでに見たように、「言葉や行動が謙遜で礼儀正しいこと」(『国立国語院標準国語大辞典』)であった。「恭遜」という用語は、韓国社会において目上の人に接する際に求められる恭遜な態度や話し方という社会規範的印象が強いため(전, 2004)、語用論における特性としての恭遜を受け入れるという認識がなかったとも考えられる。

6. おわりに

同じく東アジア圏に属する日本・中国・韓国では、英語の“politeness”に対応する「丁寧」・「礼貌」・「공손(恭遜)」がどのように理解されているのかについて、辞書とアンケートによって調査を行なった。その結果、辞書記述は基本的に規範である「礼」にしたがった行動といった説明であり、共通していた。しかしながら、辞書記述の「礼」は、もっぱら謙虚な態度と具体的な中身の無い礼儀にのっとった行動を意味しているに過ぎない。形式的なアンケートによる連想調査に関しては、連想する内容に言語による違いがあることがわかった。言語によって基本的なコミュニケーションにおける関心や注目点が異なるということである。日本・中国・韓国はその歴史的経緯から文化的背景を共有していたという過去があるので、対人コミュニケーションの仕方も同様であろうと考えがちである。ところが、本研究が示唆するような違いは、このような考えが少なくとも現代においては思い込み過ぎない場合もあることを認識させ、日中韓間の異文化間コミュニケーションにおける期待のズレを説明するのに有効である。

対人コミュニケーションの基本は、友好的な人間関係を構築し、維持していくことである。その際に注目すべきことにはたとえ言語や社会が異なっても共通性があるだろう。これまでの研究はそのような「普遍性」を前提にするのが通例であった（いわゆる「ポライトネス研究」）。しかし、本稿の調査は、社会的関係を構築する際の着目点に文化的な違いがあることを明らかにした。本稿で扱ったような個別言語の日常的個別概念を基礎とした関連する概念の総体を個別言語ごとに調査することが、言語や社会ごとに異なるコミュニケーション研究の有効な手立てとなりうることを示唆されたと言えよう。たとえば、近年、日本では、「優しさ」や「傷つく」といった語が対人行動におけるキーワードと言ってもいいほど使われているが、中国語や韓国語にもこのような語に対応するキーワードが存在するはずである。こういった語やそれによって表わされる概念の違いに着目した方向の研究も必要であろう。

文献

- 조준학(1979): 「영어와 국어의 honorific 비교서설」 『영어영문학』 72, 한국영어영문학회, pp. 325-340.
- 전해영(2004): 「한국어 공손표현의 의미」 『한국어의미학』 15, 한국어의미학회, pp. 71-92.
- Brown, P. & S. C. Levinson (1987): *Politeness. Some universals in language usage*. Cambridge: Cambridge UP.
- Eelen, G. (2001): *A Critique of Politeness Theories*. Manchester: St. Jerome.
- Gu, Y. (1990): “Politeness phenomena in modern Chinese.” In: *Journal of Pragmatics* 14(2): 237-257.
- Haugh, M. & Y. Obana (2011): “Politeness in Japan.” In: Kádár & Mills (eds.), pp. 147-175.
- 허상희(2009): 「한국어 공손법에 관련된 제문제들」 『韓民族語文學』 54, 한민족어문학회 pp. 197-221.
- 彭国躍(2012): 『古代中国語のポライトネス—歴史社会語用論研究』 ひつじ書房.
- 井出祥子・荻野綱男・川崎晶子・生田少子(1986): 『日本人とアメリカ人の敬語行動』 南雲堂.
- Ide, S. / B. Hill / Y. M. Carnes / T. Ogino / A. Kawasaki (1992): “The concepts of politeness: An empirical study of American English and Japanese.” In: R. J. Watts / S. Ide / K. Ehlich (eds.): *Politeness in Language: Studies in its history, theory, and practice*. Berlin etc.: Mouton de Gruyter, pp. 281-297.
- Kádár, D. Z. & S. Mills (eds.) (2011): *Politeness in East Asia*. Cambridge: Cambridge UP.
- Kádár, D.Z. & Y. Pan (2011): “Politeness in China.” In: Kádár & Mills (eds.), pp. 125-146.
- Kim, A. H.-O. (2011): “Politeness in Korea.” In: Kádár & Mills (eds.), pp. 176-207.
- 金田一春彦・林大・柴田武編(1995): 『日本語百科大辞典』 大修館書店.
- Marui, I. / Y. Nishijima / K. Noro / R. Reinelt / H. Yamashita (1996): “Concepts of Communicative Virtues (CCV) in Japanese and German.” In: M. Hellinger / U. Ammon (eds.): *Contrastive Sociolinguistics*. Berlin / New York: Mouton de Gruyter, pp. 385-409.
- 丸井一郎(2006): 『言語相互行為の理論のために 「当たり前」 の分析』 三元社.

- Nishijima, Y. (1995): „Über den Bedeutungswandel von „teinei“. —Zum internationalen Vergleich der Konzepte von kommunikativen Tugenden—. In: 『好村富士彦教授退官記念論文集』, pp. 207-220.
- (1996): „Bewertende Konzepte kommunikativen Verhaltens (BKKV) und soziale und kulturelle Verhältnisse. — Ein lexikalischer Ansatz anhand der semantischen Beschreibung in Lexika—. In: 『金沢大学教養部紀要 人文科学篇』第33巻第2号, pp. 155-178.
- 西嶋義憲(2000): 「コミュニケーション行動評価概念研究のための予備的考察：対照社会言語学の視点から」. In: 『金沢大学経済学部論集』20(1), pp. 107-132.
- Reinelt, R.(1995): „Wie die Höflichkeit ihr Gesicht verlor“. In: 『愛媛大学教養部紀要』第28号, pp. 131-160.
- 陶琳(2001): 『日本語・中国語・英語における丁寧表現の比較』. 金沢大学: 博士論文(未公刊).
- Watts, R. J., S. Ide, & K. Ehlich (eds.)(1992): *Politeness in Language: Studies in its History, Theory and Practice*. Berlin; New York: Mouton de Gruyter.

辞書類

【日本語】

- 『日本辞書 言海』大槻文彦編、1891.
- 『日本国語大辞典』日本大辞典刊行会編、全20巻、小学館、2001-2002.
- 『広辞苑』(第6版) 新村出編、岩波書店、2006.
- 『邦訳 日葡辞書』土井忠生・森田武・長南実編訳、岩波書店、1980.
- 『日本類語大辞典』芳賀矢一校閲、志田義秀・佐伯常麿編、1909 (リプリント版: 『類語の辞典』全2巻、講談社、1980) .

【中国語】

- 『康熙字典』(1766-1834) 王引之、商務印書館、リプリント版、1996.
- 『中華大辞典』中華大辞典編輯部中華大辞典出版社、1935.
- 『辞海』辞海編輯部、上海辞書出版社、1936.
- 『辞海』上海辞海編輯委員会、上海辞書出版社、1979.
- 『漢語大辞典』主編 羅竹風、漢語大辞典編輯委員会、漢語大辞典出版社、1991.
- 『漢語詞典』簡本 中国大辞典編委会、商務印書館、1937 初版、初版第11刷 1957.
- 『現代漢語辞典』(初版) 中国社会科学院语言研究所編輯、商務印書館、1979.
- 『現代漢語辞典』(第六版) 中国社会科学院语言研究所編輯、商務印書館、2012.

【韓国語】

- 『国立国語院標準国語大辞典』国立国語院公式サイト、ウェブ版、2012.
- 『延世韓国語辞典』斗山東亜、ウェブ版、2000.